

新たに「選定」した建物や庭園

別紙 2

NO	選定番号	区	選定名称 下段：読み	推薦理由（抜粋）
1	第 8-026 号	北	日本福音ルーテル賀茂川教会 にほんふくいんるーてるかもがわきょうかい	<p>昭和 29 年(1954)に建てられたヴォーリズ的设计による教会。赤瓦の屋根とクリーム色の外壁が素朴で親しみを感じる。</p> <p>礼拝堂は祭壇上部のアーチが印象的で、木造トラスの小屋組，白い壁，木の腰壁で囲まれた温かみのある空間である。</p> <p>戦後に建てられた貴重なヴォーリズ作品 平成 16 年(2004)年に築 50 年を迎えた。</p>
2	第 8-027 号	下京	興正寺 こうしょうじ	<p>西本願寺の脇門跡だったが，明治 9 年（1876）に真宗興正派として独立し，同派の本山となる。</p> <p>現在の御影堂と阿弥陀堂は，火事で焼失後，明治 44 年（1911）に再建された。</p> <p>三門，阿弥陀堂門，経蔵，鐘楼，茶室などが建ち，近世から近代にわたる真宗寺院の遺構である。</p>
3	第 8-028 号	下京	旧中邨家 きゅうなかむらけ	<p>昔の姿を残している大型の町家。</p> <p>祇園祭の物見台が残っている。</p> <p>しっかり手入れされていたため建物の状態がよく，大きな改修もされておらず，貴重な町家である。</p>
4	第 8-029 号	西京	五社神社 ごしゃじんじゃ	<p>茅葺き屋根と楠の大木が印象的な神社。</p> <p>神事芸能などの風習や，明治以前の神仏習合の様子をよく残している。</p> <p>本殿は文化 6 年（1809）に建てられ，奥行きに比べ間口が広く，平面形式や構造が独特である。</p>
5	第 8-030 号	北	京見峠茶家 きょうみとうげちやや	<p>昭和 30 年（1955）頃が開業された茶家で，わらび餅，草餅，ぜんざいなどが名物だった。</p> <p>小浜と京都を結ぶ西の鯖街道沿いに建っており，江戸時代には旅籠として使われていた。</p> <p>室内には，おくどさん，古文書，民芸品など貴重な品々が残っている。</p>

新たに「選定」した建物や庭園

別紙 2

NO	選定番号	区	選定名称 下段：読み	推薦理由（抜粋）
6	第 8-031 号	北	重山文庫（旧新村家） ちょうざんぶんこ（きゅうしんむらけ）	<p>広辞苑の編纂者である新村出（しんむらいずる）の旧宅。木戸孝允別邸の一部を移築したもので、明治初期の和風建築の趣を残す。</p> <p>現在、重山文庫として、奥座敷を含めた一部が一般公開されている。</p> <p>幕末の歴史と近代の言語学者の足跡が残されている。</p>
7	第 8-032 号	北	柗湯 ひいらぎゆ	<p>柗野の銭湯。</p> <p>開店から 50 年以上になる。</p> <p>タイルに描かれた浴室の絵が美しい。</p> <p>現在、このようなタイル絵をつくる職人がいなくなっており、貴重である。</p>
8	第 8-033 号	北	平野の家 わざ 永々棟 ひらののいえ わざ えいえいとう	<p>大正から昭和に活躍した日本画家 山下竹斎の邸宅兼アトリエとして、大正 15 年（1926）に建てられた木造の建物。</p> <p>近年、数寄屋大工による保存修理工事が行われ、現在は、茶道教室、いけばな教室、講演会、コンサートの会場として活用されている。</p>
9	第 8-034 号	上京	石崎家 いしざきけ	<p>大正 14 年（1925），藤井厚二が設計した木造 2 階建ての住宅。</p> <p>保存状態が良く、藤井の住宅に対する設計思想を見ることができる。</p> <p>藤井厚二が設計した住宅で現存する数少ないもののひとつ。</p>
10	第 8-035 号	上京	水火天満宮 すいかてんまんぐう	<p>都の水害と火災を鎮めるため、醍醐天皇の勅願で、水火社天神天満宮として延長元年（923）に建立された日本最初の天満宮。</p> <p>昭和 25 年（1950），堀川道路拡幅の際に現在の地に移転した。</p>

新たに「選定」した建物や庭園

別紙 2

NO	選定番号	区	選定名称 下段：読み	推薦理由（抜粋）
11	第 8-036 号	上京	法輪寺 ほうりんじ	<p>だるま寺の名で親しまれているお寺。 臨済宗妙心寺派で、享保 12 年（1727）に創建された。 だるま堂には、奉納されただるま八千体余りが並んでいる。 二月の節分には多くの参拝者で賑わう。</p>
12	第 8-037 号	左京	蹴上発電所 けあげはつでんしょ	<p>琵琶湖疏水の水を利用した日本初の一般供給水力発電所。 明治 45 年（1912）に建てられた第二期の建物は赤煉瓦の外観で、蹴上のランドマークである。 明治時代の水力発電所が現存する例は珍しく、貴重である。</p>
13	第 8-038 号	左京	夷川発電所 えびすがわはつでんしょ	<p>琵琶湖疏水の水を利用する発電所。 建物は 1914 年（大正 3 年）完成した建物は煉瓦造平屋建てで、室内には発電機が置かれ、小規模な建物ながら、窓のアーチや入口両脇の装飾など、丁寧にデザインされている。 近代化を進める京都の様子を伝える重要な建物である。</p>
14	第 8-039 号	左京	井口家 いぐちけ	<p>昭和元年（1926）、京都パラダイス跡の分譲地に建てられた洋館の住宅。 この地域には珍しい洋館で、現在も素敵な姿を見せている。</p>
15	第 8-040 号	左京	鑑富弘 かぎとみひろ	<p>銀閣寺の近くに建つそば屋。現在の店主は三代目である。 白川通と今出川通の交差点から、銀閣寺に向かって疏水沿いに歩くと左手に見える、外観に特徴のある建物。</p>

新たに「選定」した建物や庭園

別紙 2

NO	選定番号	区	選定名称 下段：読み	推薦理由（抜粋）
16	第 8-041 号	左京	小林家（旧古川家） こばやしけ（きゅうふるかわけ）	北白川の疏水沿いに建つ、鉄筋コンクリート造 2 階建の住宅。設計は増田友也で、コンクリート打ち放しが特徴である。 昭和 31 年（1956）に建てられ、後に増築したが、平成 24 年（2012）に増築部分は撤去され、建てられた時の状態となっている。
17	第 8-042 号	左京	栗原家 くりはらけ	大正期に建てられたと思われる近代数寄屋。 座敷を中心とした間取りから、居宅ではなく、接客のために建てられたと考えられる。
18	第 8-043 号			非公表
19	第 8-044 号	左京	栖賢寺 せいけんじ	南北朝時代に尼崎で開山、昭和 7 年（1932）に現在の地に移転した禅宗寺院。 実業家山口玄洞が寄進し、元京都府技師安井檜次郎の設計による近代和風の寺院である。 境内には、本堂、観音堂、鳳凰閣、鐘楼、茶室などが建ち、全体に中世の寺院に範をとった意匠である。
20	第 8-045 号	東山	旧熊倉家 きゅうくまくらけ	五条坂の近くに建つ住宅で、昭和初期に建てられた。熊倉工務店の社屋として使われたこともある。 近年改修され、宿泊施設として活用される予定である。

新たに「選定」した建物や庭園

別紙 2

NO	選定番号	区	選定名称 下段：読み	推薦理由（抜粋）
21	第 8-046 号	山科	山科別院長福寺 やましなべついでんちょうふくじ	<p>享保 17 年（1732），東本願寺の境内に建っていた長福寺を移築し創建された。 本堂は天明年間（1781～88）に建てられたと伝わる。 東本願寺の別院で、「東御坊さん」の名で地域に親しまれている。 春はお花見，秋は紅葉でにぎわう。</p>
22	第 8-047 号	山科	片岡家 かたおかけ	<p>山科の農家住宅。 木造 2 階建ての大きな民家で，瓦葺きの屋根には煙出しが見える。 敷地の西側を土塀で囲み，庭を設けている。 山科という地域を物語る建物である。</p>
23	第 8-048 号	下京	旧橋家（望月家） きゅうたちばなけ（もちづきけ）	<p>昭和初期に建てられた総 2 階建ての表家造の町家。 通り庭，火袋など，建築当時の意匠がよく残っている。 今後も家族で維持・継承して行く。</p>
24	第 8-049 号	伏見	津田家 つだけ	<p>伏見南浜に建つ町家。虫籠窓と出格子が特徴である。 津田家は両替商と炭屋を営み，伏見界わいの商いと生活を支えました。高塀の奥には洋館が建っている。蔵は江戸中期に建てられたものと伝わる。 奥行きが深いトオリニワや広大な庭から当時の繁栄ぶりがうかがえる。</p>
25	第 8-050 号	北	旧藤ノ森湯 きゅうふじのもりゆ	<p>船岡温泉の経営者 大野松之助は昭和 5 年（1930）に銭湯として開業。 外観正面の腰壁や浴室にマジョリカ風タイルが使われているのが特徴。 平成 11 年（1999），銭湯は廃業したが，現在はカフェとして活用されている。</p>

新たに「選定」した建物や庭園

別紙 2

NO	選定番号	区	選定名称 下段：読み	推薦理由（抜粋）
26	第 8-051 号	北	船岡温泉 ふなおかおんせん	<p>地元だけでなく観光客にも人気の銭湯。大正 12 年（1923）に開業し、開業当初は、料理旅館船岡楼と、その附属施設として、船岡温泉、理髪店が建てられた。</p>
27	第 8-052 号	北	西川家 にしかわけ	<p>金閣寺の近くに建つ木造 2 階建ての住宅。外観は、水平線を強調した深い軒や丸窓など、モダニズムのデザインである。室内は和室と洋室がバランスよく配置されており、現代の生活にも適している。</p>
28	第 8-053 号	上京	山本家（仁風庵） やまもとけ（じんふうあん）	<p>昭和 15 年（1940）頃に建てられた近代和風住宅。施主の山本仁三郎は、岐阜で白生地商を営み、大正 9 年（1920）、京都に店舗を構えた。</p>
29	第 8-054 号	山科	京都洛東迎賓館（旧大野木家） きょうとらくとうげいひんかん（きゅうおおのぎけ）	<p>吉田茂内閣で国務大臣を務めた大野木秀次郎の屋敷で、迎賓館としても使われた。昭和 14 年（1939）に建てられ、現在は結婚式場などに活用されている。</p>
30	第 8-055 号	伏見	藤田家 ふじたけ	<p>旧街道沿いにある旧家で、明治初期に建てられた。港の近くであるため、かつては旧街道沿いには、旅籠、飲み屋、ばくち場が点在していた。主屋は街道から後退した位置に建ち、玄関前で米を牛車に積み替え、京に運んだ。</p>